＜愛教大活性化部門＞

大学教育ツーリズム in 大館 2020

秋田の教育から学ぶ

代表者 浅野　友花（理科・4年）他　学生5名

１．活動概要

「様々な人との交流や新たな学びから自身の可能性や幅を広げる」というコンセプトの下、秋田県大館市の教育委員会をはじめ教育に携わる方々から、特色ある秋田の教育の取り組みや授業について全5日間の日程を通して学んだ。講話後は本学の学生と秋田の先生方との交流を図りながら教育について自身の考えを深めた。5 日間を通して、リモート参加も含め延べ 45 名の学生が参加をした

２．実施状況

〇事前説明会(11 月 9 日)

今年度の大学教育ツーリズムについての説明会を行った。今回は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、直接大館へ行くことはできなかった。そこで Web 会議サービス zoom を利用して秋田県大館市と愛知教育大学を繋ぎ、学びを深めることした。愛知教育大学の学生参加者には専用の Teams アカウントに参加してもらい、連絡事項を共有し、当日参加できなかった人のためにアーカイブ機能で様子を録画したものを視聴できるよう工夫をした。

〇オンライン教育ツーリズム 2020in 大館

１日目：大館市の教育についての講話（11 月 16 日 16:30~18:00）

大館市教育委員会の山本教育監から、ふるさとキャリア教育と大館型学力の概要をお聞きした。本学からは、10 名の学生が参加した。大館市は、未来を支える若者の数が少ない「消滅可能性都市」とされていることから、少数精鋭のまちとして、市民一人ひとりが先生となれるようなキャリア教育を、市全体をあげて進めていることを知ることができた。講話を頂いた後には、学生からの質疑応答の時間を設け、学びを深める時間になった。また、最後には高橋教育長からご挨拶を頂くことができた。

２日目：ふるさとキャリア教育Ⅰ（11 月 19 日 15:00~16:00）

東舘小学校の安部芳範校長から「とんぶり」を使ったふるさとキャリア教育についてご講話を頂いた。本学からは 8 名の学生

が参加した。とんぶりは、ほうき草を加工したプチプチとした触感が特徴的な食べもので、別名「畑のキャビア」と呼ばれている。東舘小学校では3年生で種まきから収穫まで行う「マイスター」、4年生で販売を担当する「アンバサダー」というように、2年間を通して一貫したキャリア教育を行っている。ふるさとキャリア教育を学校経営の根幹にして「また来たくなるひがしだて」をモットーに、郷土愛を深め、地域の歴史についての理解を深めていることを知ることができた。

お話を頂いた後、市役所の方に手配して頂き、割引価格で農家の方から「とんぶり」を送って頂いた。参加者に配布し、実際に味わうことができた。

3日目：ふるさとキャリア教育Ⅱ（11月20日 15:00~16:30）

「サンフラワープロジェクト」実行委員長の日景賢悟さんにご講話を頂いた。本学からは、リモート参加を含め、12名の学生が参加した。日景さんは学校側ではなく、商売人としての目線で、ふるさとキャリア教育についてお話をして頂いた。サンフラワープロジェクトは、学校発信ではなく、「地域の活動に学校がどう参加できるか」というスタンスで行っており、先生と地域が連携し、一緒に市を良くしていこうと行われていることであるとわかった。子どもたちは、地域の方々と一緒にひまわりの種取りや雑草を抜いたり、売り文句を考えたりして参加している。このコロナ禍でできることは少なくなっているが、クラウドファンディングを用いた販売を行ったりと、常に何ができるか前向きに考えている姿が非常に印象的だった。

4日目：外国語の授業について（11月27日 15:00~16:00）

成章小学校の6年生担任・虻川麻里子先生、外国語支援員・成田優子先生と共に、外国語の授業についての質疑応答を行った。本学からは8名の学生が参加した。参加学生には、事前に Teams で配信された授業動画を視聴してもらい、感想や気になった点を募集し、事前に先生方に送った。

英語科の学生からは、Small talk や評価の方法についてなど、たくさん質問があった。先生方からは、Small talk の時間は日頃の授業の「力だめし」だとお話を頂いた。そして授業の中に必ず「嬉しい時間」を作ることを心掛けており、「やった！通じた！読めた！書けた！」が増えるほど、英語に対する壁は低くなってくということだった。また、先生自身が英語を楽しく教えることも大事だと感じた。楽しんで英語を学ぶことができるように様々な工夫をされていることを知り、今までの外国語の授業に対する意識が変わった時間であった。

5日目：道徳の授業について（11月30日 15:00~15:30,16:00~16:30）

本学からは、リモート参加を含め5名の学生が参加した。参加学生には、事前に Teams で配信された授業動画を視聴してもらい、感想や気になった点を募集し、事前に先生方に送った。

(1)　下川沿中学校

中学３年生担任・岩谷佳生先生と、道徳の授業について質疑応答を行った。視聴した授業は「尊厳死」がテーマであり、意見毎に席を並べ替えたり、生徒が順番に指名し合いながら意見発表を進めていた。先生が工夫されている点として、授業の最後にまとめをしないことが挙げられていた。国語の授業との差別化を図るためもあるが、ひとり一人の意見を認めることで、道徳的志向の成長を促すことができるということであった。難しいテーマであるが、教員がまず教材に真剣に向き合うことで、生徒にもその姿勢が伝わり、他人事ではなく自分に置き換えて考えることができるのだと感じた。

(2)　城西小学校

川﨑郁子教頭先生と、視聴した「命」についての授業について質疑応答を行った。助かる見込みのない命に酸素ボンベを使うのか、それともこれから助けられる命のために使うのか、子どもたちの意見は割れていた。小学生の子どもたちに、まだ知らないことを想像しやすいように、酸素ボンベや国境なき医師団を、写真や動画を使って丁寧に説明することで、考えやすくしているとのことだった。また、小学生のうちから、意見を言った後には次の発表者を指名し「〇〇さんどうぞ。」と意見を繋いでいくことで、クラスのほとんどの児童が発表していた。小学校道徳の在り方について、深く考える良い機会となった。

〇ツーリズムを振り返る会（12 月 17 日 15:00~16:30）

6 名の学生が参加し、今年度のツーリズムを振り返り、参加した感想や、教育観について座談会を行った。3 年生は教育実習に行った経験をもとに参加してくれた学生が多く、大館の先生方の授業技術や熱意を深く受け止めていた。

３．成果

本企画の成果として以下の二点を挙げる。

一点目は授業を創るための工夫を聞くことが出来たことである。昨年度は発問や机間指導などの授業中の工夫を学んだ。今年度はオンラインでの開催で授業の様子は勿論そのためにどのような準備をしているかを伺うことが出来、教材研究の重要性や児童に合わせた授業づくりを学ぶことが出来た。

二点目は多くの学校と繋がり様々な先生の意見を聞くことが出来たことである。昨年度はバスでの移動で一日に２校が限界かつ立地によって行くことが出来ない学校も多かった。しかし、今年度は場所の制約にとらわれず多くの先生と交流することが出来た。一人一人の工夫や考えに触れ、教育の多様性に気付くことが出来た。

４．今後の展望

今回の活動で秋田県の特色ある教育に興味を持ち、オンラインで話を聞くだけではなく、実際に訪れて授業を観察したいという声があった。本来ならば、学生が昨年の９月に秋田県大館市に視察に行き、実際の授業観察をして、秋田の先生と授業の質問や交流を行う予定だった。今年は新型コロナウイルス感染症のために秋田に行くことや、たくさんの学生を集めて話し合いすることができなかった。来年は様々な教育現場に訪れて学びを深め、様々な人々との語り合いを経て、学生自身教育について考える機会を増やしていきたい。

５．決算

予算：400,000 円, 残額：400,000 円

費目	支出額
○　備品 ・（支出なし）	0 円
小　計	0 円
○　消耗品 ・（支出なし）	0 円
小　計	0 円
○　旅費 ・（支出なし）	0 円
小　計	0 円
○　謝金 ・（支出なし）	0 円
小　計	0 円
○　その他 ・（支出なし）	0 円
小　計	0 円
合　計	0 円

６．メンバー

番号	学年	氏名	所属
1	3	浅野友花	理科
2	3	塩谷真央	英語
3	3	鈴木雄登	教育科学
4	4	蟹江哲太郎	教育科学
5	4	九里桜子	教育科学
6	4	横田悠磨	社会
7	教員	高綱睦美	